

(様式 1)

令和元年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立吾嬬第二中学校
校長名	駒田 るみ子

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から (平均正答率は、別表参照)

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・ 2 学年は全国平均を上回る教科が多く、特に数学と英語で成果が見られる。・ 3 学年は経年比較では A B 層の割合が増加し、D E 層の割合が減少している。・ 2、3 学年は数学と英語で全国平均を上回り、習熟度別少人数指導の成果が見られる。(2 年英語+4.2 ポイント、3 年英語+1.5 ポイント)・ 2 学年理科は昨年と比べて A B 層の割合が 16.3 ポイント増加している。	<ol style="list-style-type: none">① 2・3 年の向上が見られる教科について、指導法持続と C 層への学習支援措置を行う。② 少人数指導の授業については、教師による差や指導方法のずれが出ないように学力向上を意識した計画および授業展開を行う。③ 理科、社会は教科担当が学年所属でない場合に特に成績が低いいため、教科任せではなく、ふり返りシートや小テスト等、学年組織による基礎学力の定着・向上を図る。④ 活用 (特に表現力) の力を付けるための授業改善を全教科において展開する。⑤ 1 年生対象の放課後個別学習指導を実施する。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・ テストで間違えた問題をいつもやり直す生徒の割合が全国と比べてとても高い。・ ノートの取り方を自分なりに工夫している生徒の割合が、全国平均と比べて高い。	<ol style="list-style-type: none">① 宿題がほぼ毎日出されると回答した割合が全国と比べて大きく下回り、また、平日、土日ともに、家庭学習の時間が全国平均と比べて少ない。このことから、曜日毎の課題提出など家庭学習に組織的に取り組ませる。② 「丸わかりノートコンテスト」を実施する。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・ どの学年も授業に集中する生徒が多く、授業規律が徹底されている。・ 吾嬬二中プロシジャー (別紙参照) を意識した授業をすべての教員が展開している。	<ol style="list-style-type: none">① (校内で行った家庭学習調査結果より) 一日の家庭学習の時間が短く、また定期考査前と定期考査後の家庭学習時間の差が激しいため、教科ではなく学年など組織的な家庭学習の推進を行い、放課後学習教室を充実させる。② 吾嬬二中プロシジャーをさらに徹底した授業改善を行う。③ 教員全員の研究授業の実施により授業力の向上を図る。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 基礎・基本の定着を図り、活用能力を高める授業の実践【授業改善】

- ① 学習のねらいを明確にした授業の導入、学習のふり返りを意識したまとめの徹底
 - ・ 吾嬬二中プロシジャーを再確認し、共通理解のもと個に応じた丁寧な指導を心掛ける。
 - ・ 校内研修以外でも互いの授業を参観し合い意見交換することで、授業力の向上を目指す。
 - ・ 「丸わかりノートコンテスト」を実施してノート指導を徹底し、学力の定着を図る。
- ② 区・都・全国学力調査結果の分析及び学力向上プランの作成

- ・過去の問題に取り組み、弱点を把握させ、粘り強くそれを克服するような授業を実践する。
- ・全教員が学力向上プランに基づいた授業を実践及び検証をし、ふり返り期間を利用して背生徒への個別の学習支援を行う。
- ③ 数学・英語（習熟度別少人数指導）、国語（T T）の効果的な実施
 - ・各コースの生徒数も考慮しながら、学習事項を定着させるための、繰り返しの学習を進めることで学力向上を図る。
 - ・国語の T2 の指導対象生徒を明確化し、学習の定着を図る。
- ④ 班編制の工夫した話し合い活動による思考力・判断力・表現力の向上
 - ・生活班に限らず学習を意識して、生徒の実態に応じて習熟度も考慮しながら班編制を行う。
 - ・ホワイトボードを使って、二往復以上の話し合い活動により思考力・判断力・表現力の向上を図る
- ⑤ I C T機器の活用
 - ・授業で i P a d 等を用いて画像や動画を見せたり、様々なソフトを活用したりすることで、視覚的な効果が期待されるため、積極的に活用し、学習意欲向上と理解度のアップを図る。

(2) ふり返りシートの効果的な活用と、定期考査、各種コンテストの実施【繰り返し学習】

- ① 既習事項の復習や宿題として、各教科におけるふり返りシートの効果的な活用
 - ・各教科でふり返りシートを活用し、自分の弱点を把握させるとともに個別に支援を行う。
 - ・前半部分を確認しながら後半の実践問題を解くことで、自力解決の力を身に付けさせる。
- ② 年4回の定期考査の実施
 - ・考査3週間前より家庭学習計画を作成し、実施させることで学習量を増やす。
 - ・定期考査前に質問教室を実施するとともに、組織的に課題学習や朝学習の時間を設ける。
- ③ 授業における小テストの実施
 - ・日常的な小テストへの取組を通じて、知識・技能を定着させる。再テストを徹底する。
- ④ 漢字コンテスト（12月）、計算コンテスト（2月）、スペリングコンテスト（年2回）の実施
 - ・コンテストに向けての学習を通じて、読み書き計算の基礎を定着させる。
 - ・実施前に朝学習を設けたり、宿題としてじっくり取り組ませたりする。
 - ・目標点に届かなかった生徒に対して、補講や居残り学習を実施する。
 - ・一時的な学習指導ではなく、継続的な指導により、各内容を確実に定着させる。

(3) 学習機会の拡大【D・E層の生徒の基礎学力の定着】

- ① 質問教室や補習教室の実施（下位層の生徒を指名するとともに、希望者も対象とする）
 - ・夏休みに補充教室を実施する。（1年：3日間、2年：5日間、3年：6日間）
 - ・定期考査前や各種コンテスト前に放課後学習会（吾婦二塾）を実施する。
 - ・すみだS S Tを活用して国、数、理、英の放課後学習会を実施する。
（人数を絞って指名制）（2・3年生対象）
 - ・放課後にP C室を解放して、e ライブラリ学習会を実施する。（1年生対象）
- ② 宿題を計画的に学年等で出す。（教科担任が学年所属にいない場合でも定期的実施）
- ③ 学習サイクルの確立
 - ・①②により、家庭学習の意欲向上にもつなげ、学習習慣を身に付けさせる。

3 「令和2年度 墨田区学習状況調査」における目標

- ・5教科59観点のうち、全国平均を上回る観点を25以上にする。（今年度は21）
- ・2・3学年のすべての教科でD・E層の生徒の割合を40%以下にする。

すべての教科で学力向上プランを作成して、来年度の数値目標を設定している。

2で述べた「本年度の学力向上に関する主な取組」を確実に実施することで、学校全体としての数値目標を達成する努力をしていきたい。